

## 令和5年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) 検討事項 (5) その他
日時	令和5年12月22日(金) 午後7時00分 開会 午後7時35分 閉会
場所	ZOOM会議
出席者氏名	大木教久委員長、下里隆史副委員長、佐藤崇委員、山口哲也委員、菅原一朗委員、佐藤貴之委員、大久保敦子委員、加納健司委員 事務局(中沢事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤事務局長、益原患者支援センター所長、福田診療部長、河野中央診療部長、高瀬医事課長、江崎患者支援センター担当長、岡野がん相談専従看護師、大山患者支援センター看護師主査)
欠席者氏名	榎本浩幸医院、小笹貴夫委員
資料	・ 地域医療支援委員会次第 ・ 1-1 令和5年度 紹介率・逆紹介率 ・ 1-2 診療科別紹介率・逆紹介率 ・ 1-3 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 ・ 1-4 予約検査の件数表 ・ 1-5 患者支援センター相談実績 ・ 1-6 地域医療機関と連携した研修会等実績 ・ 1-7 登録医救急診察専用回線集計表 ・ 2 がん相談支援センター実績報告 ・ 3-1 医療機関別救急車搬送患者受け入れ状況 ・ 3-2 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況 ・ 3-3 循環器HOTLINE集計表 ・ 4 紹介安心カードについて
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

<午後7時00分 開会>

○事務局（益原患者支援センター所長）

皆様こんばんは。委員の先生方におかれましてはお忙しいところ茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより令和5年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開催いたします。委員10名に対しまして、本日6名の委員にご出席(開会后2名途中出席)いただいております。茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規程第6条第2項の規定する定足数を満たしておりますので、委員会が成立いたしますことをご報告いたします。それでは、会議に先立ちまして、中沢事業管理者からご挨拶をさせていただきます。中沢先生、よろしくお願いいたします。

○事務局（中沢事業管理者）

皆様こんばんは。事業管理者の中沢でございます。本日は大変お忙しいところ、夜間帯にも関わらず、今年度第3回目の地域医療支援委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より皆さま方には、市立病院の運営にご協力ご理解を賜りましたこと、重ねて心から感謝申し上げる次第でございます。今年も残すところあと10日ほどになりましたけれど、このところ季節性インフルエンザの患者さんも比較的多くなってきています。まだ爆発的というのではないのですが、コロナの患者さんもだいたい週に13から15人くらいという形で、まだまだ消えず、ここでまた少し増えてきているような状況でございます。本日は第3回目ということで、9月末現在の半年間の数字という形で患者支援センターとがん相談支援センターの実績と救急搬送の件数についてご報告させていただくとともに、平成19年3月から運用してまいりました紹介安心カードの運用につきましてもご議論頂ければと思っております。本日はどうぞ忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（益原患者支援センター所長）

中沢先生、ありがとうございます。続きまして、藤浪病院長からご挨拶を申し上げます。藤浪先生お願いします。

○事務局（藤浪病院長）

皆様こんばんは。夜遅い時間にありがとうございます。中沢先生が言われた通り、コロナは落ち着いてきましたけれども、インフルエンザは非常に増えており、小児科の救急外来も多くの患者さんが来ている状況で、皆様方も休日診療所で頑張っていること、ありがとうございます。僕がお話したいことは、ダヴィンチの進捗状況をお話しさせていただきます。泌尿器と外科、それぞれが7月から開始して15件ずつぐらい行い、順調に手術を行っている状況です。皆様方には引き続きご支援いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

○事務局（益原患者支援センター所長）

藤浪先生、ありがとうございます。それでは、これより先の議事進行につきましては、大木委員長にお願いしたいと思います。大木委員長よろしくお願いいたします。

#### ○大木委員長

では、円滑な議事進行を心がけてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。それでは議題に移ります。まず議題1の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いいたします。

#### ○事務局（江崎患者支援センター担当長）

はじめに、資料の確認をさせていただきます。事前に配布させていただきました資料といたしまして、

資料1-1 令和5年度 紹介率・逆紹介率（9月）

資料1-2 2023年9月診療科別紹介率・逆紹介率

資料1-3 茅ヶ崎市立病院 紹介元・逆紹介先医療機関一覧

資料1-4 予約検査

資料1-5 令和5年度 相談日誌（延件数）

資料1-6 令和5年度 地域医療機関と関連した研修会等実績

資料1-7 2023年度 登録医救急診察専用回線による紹介患者集計表  
4月～9月

資料2 令和5年度 がん相談支援センター実績報告

資料3-1 2023年度病院別救急車搬送件数の状況（茅ヶ崎市消防）

資料3-2 茅ヶ崎市消防 令和5年度 茅ヶ崎市立病院搬送状況（行政地区別）

資料3-3 循環器内科 HOTLINE

資料4 紹介安心カードについて

皆様、お手元に資料は届いておりますでしょうか。ありがとうございます。

#### ○事務局（江崎患者支援センター担当長）

それでは、令和5年4月から令和5年9月の患者支援センター業務実績について、説明をさせていただきます。

患者支援センター江崎です。よろしくお願いいたします。

まず、資料1-1をご覧ください。

令和5年度 紹介率・逆紹介率の表となります。年度累計の紹介率、逆紹介率をご覧ください。令和5年4月から令和5年9月の紹介率の平均は、68.7%、逆紹介率の平均は、92.8%です。令和4年度平均と比較いたしまして紹介率は4.7%・逆紹介率は6.8%と緩やかな上昇が見られています。地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%以上・逆紹介率40%以上の基準も満たしております。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

令和5年9月と同年4月から9月の累計 診療科別 紹介率・逆紹介率の表です。令和5

年4月から令和5年9月の右上にある年度累計の覧をご覧ください。紹介率は、左端の番号23番の放射線治療科が100%、22番の放射線診断科が99.5%、19番の眼科が95.5%の順に高くなっており、また逆紹介率は、23番の放射線治療科、11番の呼吸器外科、6番の循環器内科の順に高くなっています。

続きまして、資料1-3をご覧ください。

令和5年4月から令和5年9月の累計、紹介元・逆紹介先 医療機関一覧です。紹介元は、医療機関名と紹介患者数、その内の検査件数を表しています。紹介元および逆紹介先医療機関ともに、やまもと内科クリニック・藤川整形外科・大木医院の順に多くなっています。令和4年4月から9月と比較いたしますと、左端の数字18番の寒川こどもとアレルギーのクリニック、30番のはまみこどもクリニックからの紹介患者の増加が見られ、今年度は、小児感染症が流行したことが要因と考えられます。また今年度はさらにがん地域連携クリティカルパス連携医療機関の拡大に向けて説明会等開催し、連携医療機関が7施設から16施設へと増えました。紹介元医療機関の中の8施設と連携させていただいております。引き続き地域医療機関と連携を強化していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料1-4をご覧ください。

予約検査の件数表です。令和5年4月から令和5年9月の実績です。前年度と比較いたしまして増加している検査項目は、CT・腹部エコー・甲状腺エコー・頸動脈エコー・脳波・筋電図・栄養指導です。CT・MRI に関しましては検査需要が高く推移しています。昨年度 RI 検査において放射線同位元素が入りにくいと思いましたが、放射線科に確認したところ、現時点では問題なく供給されているとの回答があったため、ご利用いただきたいと考えております。

また土曜日の検査予約につきましては、実績はお配りしておりませんが、口頭での報告をさせていただきます。令和5年4月から9月までに59件の紹介がありました。昨年度と比較いたしますと、8件の増加となっております。土曜日の予約検査の取り組みにつきましては、令和元年5月より第2、第4土曜日の8:30から12:00に単純CT検査、腹部超音波検査、甲状腺超音波検査の予約を開始しております。予約枠も少し余裕が見られます。患者さんのご都合等もあるかとは思いますが、ご利用いただきたいと思っております。

続きまして、資料1-5をご覧ください。

令和5年4月から令和5年9月までの、月別 相談延べ件数表です。相談には、看護師と社会福祉士が対応しています。相談対応総数は6,668件で、相談内容の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く1,988件、次に転院に向けての退院相談が1,298件、次にがん患者の相談が608件となっております。コロナ禍となり在宅を希望される患者さんが増加し、在宅への退院相談が一番多い相談内容となりました。資料右側の対応方法ですが、電話での相談対応が2,407件と相談件数が多く、前年度と比較いたしまして356件減少しました。また対面での相談件数は面談対応が1,566件、IC同席が352件と合計1,918件と昨年度と比較いたしまして220件の増加となりました。

した。新型コロナウイルス感染症が5類となり、対面での相談が徐々に増加しつつあります。また、院外関係者とのカンファレンスの件数も53件で昨年度と比較いたしますと41件の増加となりました。今年度の取り組みとして在宅退院される患者さんを中心にケアマネジャーとの連携を強化する取り組みを行っております。近隣関係機関から退院前カンファレンスの要望も伺っております。対応できるように進めてまいります。

続きまして、資料1-6をご覧ください。

令和5年度地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。4月から9月までに13回開催いたしました。今年度初めて歯科口腔外科病診連携会を開催することができました。定例開催となるように調整を図っていきたいと考えております。

続きまして、資料1-7をご覧ください。

令和5年度の登録医救急診察専用回線の対応件数となります。

対応件数は245件で前年度より70件増加いたしました。入院になったケースは116件で昨年度と比較いたしますと、57件の増加となり、入院割合は約47%となりました。今年度は小児感染症の流行が見られた影響により、入院患者数が増加したことが考えられます。診療科については、例年通り小児科が最も多く、次に内科一般となっています。科別入院患者数においては小児科が最も多く、次いで消化器内科、循環器内科となっています。入電時間は、午前は9時台で午後は17時台が最も多くなっています。医師の交替等により、電話におつなぎするのに時間を要してしまうケースも時に発生しております。問題ケースにつきましては改善をはかりながら、なるべくお待たせすることなく、ご指定の診療科医師におつなぎできるよう努めてまいります。

報告は以上となります。

○大木委員長

はい。説明が終わりました。議題1について委員の皆様からご意見ご質問を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山口哲也委員

すみません。ちょっとよろしいでしょうか。

○大木委員長

はい。山口先生どうぞ。

○山口哲也委員

予約検査の事なのですが、心エコーで臨床検査関連の先生にお聞きしたいのですが、小児の対応は可能なのでしょうか。我々の流れとしては、先天性疾患が多いのでその評価を兼ねて、通常小児科の先生に紹介という形をとるのですが、VSDのSDやASなどの評価をしていただけるのであれば、プロフェッショナルの技師さんにみていただいて、また

戻ってくるっていうのも、連携としてありじゃないかなと思うのですが、そのあたりいかがでしょうか。

○事務局（益原患者支援センター所長）

先生、ありがとうございます。益原からお答えします。小児の心エコーについては、小児科医が直接当院でも行っております。技師の方に直接心エコーだけご紹介というのは対応が難しいように思いますので、従来通り小児科の方へご紹介頂ければと思います。

○山口哲也委員

了解いたしました。

○大木委員長

他にございますか。なければ、議題1は終了したいと思います。いかがでしょうか。異議なしということなので、議題1は以上をもちまして終了いたします。次に議題2のがん相談支援センター実績報告について事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（岡野がん相談専従看護師）

がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願いいたします。

それでは、がん相談支援センター令和5年度4月から9月の業務実績についてご説明いたします。資料2をご覧ください。

相談件数は、6ヶ月で延べ638件です。前年度より185件増加しました。1人の患者さんが複数回相談に来られた際は、その回数分カウントされる為、相談件数の増減があります。

2)の支援方法は、対面相談が531件、電話相談が107件です。

4)の相談依頼ルートについては、患者ご本人が一番多く260件、ご家族が80件、医師からの依頼が185件、看護師より76件ありました。

5)の相談内容の内訳については不安・精神的苦痛が455件、症状・副作用・後遺症が443件、次いでがんの治療についてが262件、在宅医療が125件、ホスピス・緩和ケアが46件でした。

相談内容は、不安・精神的苦痛などが一番多くなっています。一例としては、手術後、病理結果が出るまでの間に、悪い結果が出たらどうしたらいいか心配で繰り返し相談に来られる方、セカンドオピニオンに行きたいが、どのように医師へ相談をしたらいいのかなど、様々なご相談で患者さんやご家族などが来られます。まずはお話をお聞きしながら、その方が解決できる方法を探す様にしています。今後も引き続きがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえる様に周知活動を続けていきたいと考えています。

説明は以上となります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題2について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にないですかね。件数が増えてきたということで、正常化しつつあるということのようですね。他に質問がなければ、議題2は終了にしたいと思いますがいかがでしょうか。

異議なしということなので、議題2は以上をもちまして終了いたします。次に議題3の救急搬送状況について事務局より説明をお願いします。

○事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題3「救急搬送状況」につきまして、ご説明いたします。医事課長高瀬でございます。よろしくお願いいたします。

資料は資料3-1から資料3-3でございます。資料につきましては、画面共有もさせていただきますので、ご都合に応じてご覧ください。

それでは、資料3-1上段の表をご覧ください。

こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。

表の右側の年度累計（当月まで）の欄をご覧ください。こちらは、令和5年度（2023年度）と前年度の9月までの合計と割合を表したものでございます。全体の搬送件数が前年度の8,018件から8,748件に増加していますが、当院への搬送件数は前回会議での報告と同様、残念ながら減少しております。他の病院への搬送件数が伸びている状況です。

当院の搬送件数の減少につきましては、前回会議でもお伝えしているとおりでありますが、今年度4月から常駐の脳神経外科医の配置がないために、救急受入が応需できないという事情がございます。口頭での説明で恐縮ではございますが、脳神経外科に関する救急受入の応需件数につきましては、上半期の合計件数が241件、月平均約40件となっております。引き続き茅ヶ崎市消防とも連携を図るなどして、可能な限り応需できる体制を整えようとしているところでございます。

下段の表をご覧ください。こちらは診療科別に救急車の受入件数と受け入れた当院の入院者数を表したものでございます。表の数値の詳細につきましては、欄外の注意書きのとおりでございます。

下段の表一番下の入院率をご覧ください。各月とも30%を超えておまして、右側の年度累計を見ましても、前年度25.7%から35.2%と9.5ポイント増加しているところでございます。こちら前回会議でお伝えした通り、救急搬送からの入院については今年度の重点取り組み事項でございまして、その成果が具体的に数値に現れていると分析しております。

各診療科の受入数の前年度との比較につきましては、表の右側年度累計（当月まで）にございます。表中の23診療科中11診療科で増加、10診療科で減少、2診療科で対象者なしとなっております。前回のご報告から増加に転じた診療科は呼吸器内科、代謝内分泌内科、呼吸器外科、産婦人科となっております。

全体の受入数の前年度との比較につきましては、前年度2,813件から今年度2,57

8件と235件減少しているところでございます。総合内科の減少数が232件ということで、詳細な分析はしておりませんが、昨年度7月から9月はコロナ第7波がありましたので、コロナ患者の救急搬送の減少が一因ではないかと考えるところでございます。

続きまして資料3-2をご覧ください。こちらは、令和5年度の茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数と割合を地区別に分類したものでございます。

資料、一番下の合計の欄をご覧ください。

一番右の28.4%が市立病院に搬送された割合でございます。前回報告時は27.8でしたので、0.6ポイント増加しているところでございます。地区別に前回報告時との比較を申し上げますと、茅ヶ崎地区で1.6ポイントの増加、鶴嶺地区で1.4ポイント減少、松林地区で0.6ポイント増加、小出地区で1.1ポイントの増加、寒川地区で1.6ポイントの増加と、鶴嶺地区以外では増加している状況でございます。

続きまして資料3-3をご覧ください。「循環器内科 HOTLINE」の集計表でございます。

こちらの表につきましては、前回の会議でお伝えした数値に誤りがございまして、4月から6月までの数値が変わっておりますことをご了承いただければと思います。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。集計につきましては、精緻に実施することを心掛ける次第でございます。

「循環器内科 HOTLINE」の利用状況でございますが、前回報告期間4月から6月までの件数が12件、7月から9月までが7件と減少しているところでございます。循環器疾患は寒い時期に多いということもありまして、温かい時期の傾向が数字に表れていると考えておりますが、7月の5件については比較的多いのかなと思われまして、連携いただいた医療機関様に感謝申し上げます。

ホットラインの利用状況につきましては、第1回の委員会で報告いたしました前年度1月から3月までの実績件数が6件、今年度9月までが19件となっております。依然として地域の先生方にはもう少し身近に感じていただく必要があることを認識しているところでございます。そのような中で、前回会議の中で検討中とお伝えいたしました先生方の診療室等の身近な場所にホットラインの連絡先を掲示いただけるような、キャッシュカード大のマグネットシートの作成につきましては、予算の都合もございまして、来年度での作成を検討しているところでございます。説明は以上でございます。

#### ○大木委員長

説明が終わりました。議題3について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

特にございませんか。質問がなければ、議題3は終了したいと思います。いかがでしょうか。

#### ○大木委員長

異議なしとのことなので、議題3は以上をもちまして終了いたします。次に議題4の検討事項、1) 紹介安心カードの運用について事務局より説明をお願いいたします。

#### ○事務局（益原患者支援センター所長）



益原からご説明を申し上げます。資料の4をご覧ください。先生方にご利用していただいております、紹介安心カードという緑色のカードですが、以前に先生方に紹介状をなるべくたくさん書いていただきたいという時期に、紹介状にこれをつけていただくと、登録医の先生方からの紹介状だということがすぐ分かりますということではじめさせていただきました。最近では紹介状をつけていただくということが当たり前になってまいりまして、登録医の先生方には、むしろ、これを都度つけていただくというのがお手間になっている状況なのでないかなと思っております。当院を受診していただく際、紹介状をお持ちの方はスムーズに拝見するというので、この登録カードが付いていなくても先生方のご期待にそえるようにしっかりとした診療をしてまいりたいと思います。この機会に、一度この紹介安心カードを廃止させていただいて、何か齟齬があり、先生方からまた使用してほしいというようなご要望がありましたらまた再開させていただくということで、一旦、廃止の方向で考えさせて頂けたらなと思いますがいかがでしょうか。

○大木委員長

はい。説明が終わりました。委員の皆様からご意見ご質問ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。安心カードは紹介状がまだ確立されていない頃に発案されたもので、だいぶ時間経過とともに、今のところ紹介状があればスムーズにみてもらっているので、こちらとしても廃止でよろしいのではないかとということでもよろしいでしょうか。紹介状を持参した受診の方の進捗の報告が事務局からあると思います。

○事務局（益原患者支援センター所長）

ありがとうございます。

○大木委員長

他に質問がなければ、議題4-1は終了したいと思います。よろしいでしょうか、以上をもちまして終了いたします。次に、議題5その他について委員の皆様、事務局から何かございますか。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

一点だけ報告があります。前回地域医療支援委員会において、登録医制度の要綱のお話しをさせていただいたかと思っております。この会議の中で、意義が聞かれなかったため要綱の修正に向けて、現在文章を整えさせていただいている段階となります。先日、院内での承認をいただきましたので、今後、市役所の文書法務課と相談させていただきながら修正を行い、3月までには完成の予定となっておりますので、完成しましたらまた登録医療機関の皆様方に配布させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○大木委員長

はい。他にありますか。

○加納健司委員

いいですか。

○大木委員長

加納先生、どうぞ。

○加納健司委員

先日、登録医救急専用回線に電話をかけたのですが、その時に詐欺電話対応の音楽が流れたのですが、番号が間違えたのか良く分からなかったのですが。振り込め詐欺の対策モードの電話になってしまっているようなのですか。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

すみません。先日、操作の都合でWi-Fiが切れてしまったことがあり、一時的に電話が繋がらない状況が発生した時がありました。その時は気がついてすぐWi-Fiを接続すると、電話は通常に使える状況に戻りました。大変申し訳ありませんでした。

○加納健司委員

分かりました。なかなか繋がらなかったのです。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

すみません。

○大木委員長

他にございますか。

○山口哲也委員

僕もごめんなさい。ついでに。

○大木委員長

はい。山口先生。

○山口哲也委員

救急の専用回線なのですが、電話に出られるのは、昼間は支援センターの看護師さんですかね。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

はい。相談員です。

○山口哲也委員

時間外は、当直帯の師長さんでしょうか。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

現在は、夜間帯は6番の事務の方が電話を持っております。

○山口哲也委員

あ、変わったんですね。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

変わりました。

○山口哲也委員

あ、分かりました。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

事務の方なので、細かい内容につきましては、診療科を伺って、まずは診療科の先生にすばやくお繋ぎするという心を心がけております。

○山口哲也委員

分かりました。認識違いでした。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

何かご不便ありましたか？

○山口哲也委員

いや、ごめんなさい。てっきり師長さんが出られると思って、医療関係者的な対応でお話ししていたのですが、事務の方だったんですね。大丈夫です。失礼しました。

○大木委員長

私の方からは、患者支援センターにも相談したのですが、私のところからの紹介患者、特に高齢者の入院が多かった時に、紹介状付きで訪問診療に入っている患者などは退院のタイミングなど教えてもらっていたのですが、通常外来に通っているような患者さんの退院時期が、急に退院していたことが分かったので、できれば退院のタイミングを早めに知らせていただくとありがたいという要望は出しています。必ず全部帰ってくると思っていなくても、なるべく高齢者の退院にむけては、私たちもいろいろ準備が必要なのでよろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして、何かございませでしたら本日の議題はすべて終了となります。皆様、ご協力ありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第3回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。お疲れさまでした。